

平成 27 年度墨田区立押上小学校経営報告書

平成 28 年 3 月 14 日

学 校 目 標	知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな児童の育成
目 指 す 学 校 像	地域や保護者から信頼される 安心で安全な学校
目 指 す 子 供 像	○挑戦する子 ○つながる子 ○働く子
目 指 す 教 師 像	言葉で伝え合い、児童の気付きを促し、考えを深めることのできる教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価	改善策
各教科等指導	学校は、子供たちに確かな学力を育てるために、分かりやすい授業の実施に努めているか。	C	平成 28 年度より学力向上推進委員会を設置し、国語と算数の学力向上を目指し、4 月に学力向上推進週間を設けて学力調査に向けて補充教室等取り組む。本年度同様、特色ある学校づくり推進校として教員の授業力向上を図る校内研究を進める。	B	B
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	B	平成 27 年度末に特別支援教室を設置し、学校支援指導員を活用して特別な支援を必要とする児童の支援を行った。28 年度より特別支援教育推進委員会を強化し、関係機関と連携して事例検討を行う。	B	B
	学校は、子供たちの将来の自立に向けた教育活動・相談活動に取り組んでいるか。	B	特別活動部を中心としてたてわり活動や集会活動を行い、保護者や地域の評価も高い。スクールカウンセラーを活用して 5 年生全員面接を行った。カウンセラーによる面談を 6 年生に拡大することを検討中である。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等		学習規律はほぼ確立され、児童の落ち着いた学習展開があり、基礎・基本の定着を図る努力も認められる。学習のねらい、内容に応じる学習形態の工夫、個に応じ個を活かすための工夫を重ね、学力調査点を伸ばしてほしい。体力調査を分析し、「押上かけとび運動」で基礎体力の向上を図っているところはよい。		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価	改善策
生活指導等	学校は、子供たちの問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	B	体育館への集合・整列の仕方、話を聞く姿勢など生活規律の徹底を図った。毎週 1 回の生活指導朝会で情報を共有し、特に大きな案件は時系列での事実、学校の対応や指導について記録することを徹底した。次年度も継続する。	B	B
	学校は、子供たちが基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	B	生活指導部だよりを定期的に発行し、基本的な生活習慣を身に付ける取り組みを全学級で行った。	B	B
	学校は、子供たちの安全を確保するための取組を行っているか。	B	具体的な場面を想定した避難訓練を月 1 回実施。教員向けリスキマネジメント研修を 1 回実施。危機管理体制の点検を行っている。	B	B
	学校は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、教育活動の点検や改善に役立っているか。	A	年間 6 日間の学校公開日を設定し、開かれた学校づくりとして P T A 学年活動を各学年 1 回、計 6 回実施した。保護者による中間学校評価を行い、保護者にもあいさつの大切さを各家庭で話すように要望した。保護者からの意見や要望を活かして教育活動の改善に努めた。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等		学校だけでなく各家庭のしつけが大切、若い保護者の教育が必要である。見守り隊に対して自らあいさつする児童が少ないように感じる。継続して学校と家庭とで指導することが必要である。		

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価	改善策
学校の管理運営	学校は、管理職の経営方針のもとに、組織的な教育活動・学校運営を行っているか。	A	今年度末に分掌組織を改善し、より組織的な教育活動を行う。教職員一人一人が責任と自覚、誇りをもって職務を遂行する意欲を向上させる。	A	A
	学校は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	教育目標を具体的な場面に即して、校長が全校朝会や学校だよりで周知した。各学級が児童の実態に即して、児童の言葉で具体的な目標を立てることができるよう学級活動の充実を図ることが必要である。	B	B
	学校には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	A	4年生児童が学校施設の便利なところを取材して考え、各班のポスターを作成した。便利で整った施設や設備で学習できることに感謝の気持ちをほぐくむ。	A	B
	学校関係者評価委員会の意見等	校長がリーダーシップを発揮し、副校長は円滑に地域や保護者と応対して、協力体制を作っている。学校施設を地域が活用できるように、貸し出しシステムを整えている。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価	改善策
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	B	学校便りの紙面を改定し、毎月、各学年の教科や領域の活動を掲載するようにした。各学年だよりの起案・決済ルートを確立し、紙面の工夫を行った。	B	B
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	A	P T A主催の行事が大変活発に行われている。毎月1回の運営委員会には、主幹教諭も参加し、学校の様子をよく伝えている。学校行事や学校公開を活かし、保護者や地域の協力を得て教育活動を推進する。	A	B
	学校関係者評価委員会の意見等	学校関係者評価に関して、さらに評価の実施の仕方や結果のフィードバックに検討を加え効果的な評価になるよう検討する。			

2 平成27年度学校評価のまとめ

平成27年度初め、校長・副校長・教務主任・研究主任・生活指導主任・研究主任・養護教諭等10名が転入し、地域やP T Aに対して学校経営方針をわかりやすく伝えて、理解と協力を求めることが先決であった。次に、主幹教諭から昇任した副校長の育成、本校が初任校の教員7名の授業力の向上、主幹教諭や主任教諭の指導力の向上など、人材育成と組織の構築に取り組んだ。

本校の教育目標「挑戦する子」「つながる子」「働く子」の実現に向けて、教職員一同が力を合わせて取り組んだ1年間であった。開校当時から続く地域ボランティアの読み聞かせ活動や登校時の見守り隊の方々も本校を見守り、支えてくださっている。昨年度までの落ち着かない状況から脱し、朝読書の時間、全校児童が静かに読書に取り組み、落ち着いて授業を受けている。

次年度は、各担当の責任者を明確にした新組織表を本年度末に示し、学校の教育課題を解決するため校務改善を行う。特設委員会として、学力向上推進委員会、文化的行事委員会、体育的行事委員会を設け、知育・徳育・体育を推進する。学力向上に向けて本格的に取り組む学校経営を行う。

以上の通り報告いたします。

墨田区立押上小 学校 校長 和田 眞樹子



様式 4